



いちょう 銀杏

第108号 2021年7月15日発行

女子聖学院中学校高等学校

〒114-8574 東京都北区中里3-1 2-2

Tel03-3917-2277 Fax03-3917-3680

<http://www.joshiseigakuin.ed.jp/>



「ほめる」

【12節だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。】

(聖書：マタイによる福音書7章12節)

最近、女子聖学院の近くにお住まいの方から一枚の葉書をいただきました。嬉しい便りですので紹介させていただきます。

「初めてのお便りをさせていただきます。約一週間前の事でございますが、下校時駒込駅で熱中症と思われる若い女性がいらっしゃり、私がお声をかける前に貴校の女子中学生と思われる数名の方が声をかけて励まし、ひとりの方が駅員さんと呼びに走り、私がポカリスエットを購入している間に生徒の皆様が下敷きを取り出し一生懸命あおいでいました。無事、車いすを持ってきた駅員さんに引き継がれましたが生徒さんの気転の良さに本当に感心いたしました。これも貴校の日頃の教育が行き届いていると感心しておりました。ぜひ生徒さんをほめてさしあげて下さいませ。テキパキとした行動力と勇氣に感激いたしました。コロナ禍での教育現場

が大変と思いますが皆様のご健康をお祈りいたしております。」(原文の通り)

当該生徒たちの名前と学年は不明ですので、この紙面を通してお礼を申し上げます。下校時の駒込駅での所作は本校にとっての誉です。大いにほめたく思いますので心当たりの生徒は申し出て下さい。このことを通してわたくしは上記の聖句12節の「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」を思い浮かべました。巷ではGolden Rule(黄金律)として知られている有名な言葉です。頭ではわかっているつもりでもなかなか実行できないのが世の常ではないでしょうか。しかし、女子聖の生徒たちは当たり前のようにやっています。理由は分かりません。

ところで、このお葉書をくださった方から「ぜひ生徒さんをほめてさしあげて下さいませ」と綴られていたことに感銘を受けました。生徒を注意指導することはあっても、生徒をどれほどほめているのだろうかと自問させられたからです。「ほめ育」という言葉を聞いたことがあります。「ほめ育財団」なるものもあるそうです。ほ

めるのに年齢は関係ないと思います。学校の中だけではありません。会社も家庭も社会全体がほめあう心を持ち得たら世の中は変わることでしょう。煽てることではありません。最近わが家では古くなった体重計を買い替え、さっそく使ってみました。体重だけでなく体内年齢まで表示されます。13歳も若く表示されると、つい煽てられた気分になり悪い気がしないのも事実です。同時に企業戦略にハマった浅薄な自分にも気がつかなければならないと自戒しています。

女子聖学院の教育は聖書が土台になっています。聖書の詩篇28篇 7節には「主はわが力、わが盾。わたしの心は主に寄り頼む。わたしは助けを得たので、わたしの心は大いに喜び、歌をもって主をほめたたえる」（口語訳）と綴られています。新共同訳では「ほめたたえる」を「感謝いたします」と訳しています。主なる神様をほめつつ、感謝を忘れずに女子聖学院生活を続けたいと願うのです。

校長 山口 博

